


地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	おおつじ ゆうすけ	
氏名	大辻 雄介	
所属・役職	北海道大空高等学校 校長	
活動拠点	これまで山陰地方（主に島根県）、四国地方（主に高知県）の教育情報化に携わってきた。今後は北海道を中心に活動。	
略歴	<p>1998 年 4 月～ 塾・予備校等で算数/数学講師(教室での ICT 活用)</p> <p>2004 年 4 月 ベネッセコーポレーション入社 新規事業開発部署において遠隔授業・タブレット PC サービス開発</p> <p>2014 年 4 月 島根県隠岐郡海士町に移住・「スタディサプリ」数学講師 島前教育魅力化プロジェクトにおいて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立塾マネジメント ・公立塾および隠岐島前高校教育情報化担当 <p>2017 年 4 月 NPO 法人 SOMA 副代表理事に就任 嶺北高校魅力化プロジェクトコーディネータ・教育情報化担当</p> <p>2019 年 4 月 一般社団法人れいほく未来創造協議会 事務局長</p> <p>2021 年 4 月 北海道大空高等学校の学校長に就任</p>	
地域情報化の専門分野・技術	<ul style="list-style-type: none"> ■教育情報化の必要性 ■インターネット接続による遠隔授業 <ul style="list-style-type: none"> ・学校同士をつなぐ遠隔授業 ・複数の遠隔地にいる受講者に配信する遠隔授業 ほか ■教育のタブレット活用 <ul style="list-style-type: none"> ・映像講義、ウェブドリル、協調学習アプリの活用方法 ほか ■プログラミング教育 	
自治体向けメッセージ	<p>「教育の情報化／教育 ICT 活用」の必要性は頻繁に聞かれる言葉です。しかし頻繁に聞かれる理由は「あまり進んでいないこと」の裏返しなのかもしれません。現状は積極的に推進する自治体とそうでない自治体の格差が広がっています。「主体的・対話的で深い学び」の文脈でも必要な ICT 活用をともに推進しましょう。</p>	

関連URL	なし
地域情報化 に関する実績	これまでの経験業務・研究活動
	<p>■教室における ICT 活用実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション黒板に投影して授業を実践 ・電子黒板活用 ・タブレット PC 活用 ・プログラミング教育 <p>■遠隔授業・映像講義の事業開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過疎地同士をつなぐプロジェクト型学習（双方向） ・都市部の講師と過疎地の生徒をつなぐ講義型授業（双方向） ・過疎地と海外をつなぐ語学学習（双方向） ・録画授業における指導方法と、その活用方法
	これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト
	<p>■島根県隠岐島前教育魅力化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の教育情報化（タブレット PC 導入・遠隔授業実践） ・小中学校の教育情報化（タブレット PC 導入） ・公立塾の教育情報化（タブレット PC 導入・遠隔授業実践） <p>■島根県情報戦略会議（教育分野担当）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育分野における情報化助言 <p>■神奈川県真鶴町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立小中学校の教育情報化（タブレット PC 導入） ・プログラミング授業コーディネート ・IT リテラシー教育コーディネート <p>■高知県土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教育情報化（タブレット PC 導入・海外との遠隔授業実践） ・プログラミング授業コーディネート <p>■教委・教員向け「情報化研修講師」多数</p> <p>■教育の情報化に関する講演 多数</p> <p>■北海道大空高等学校における一人一台端末運用</p>